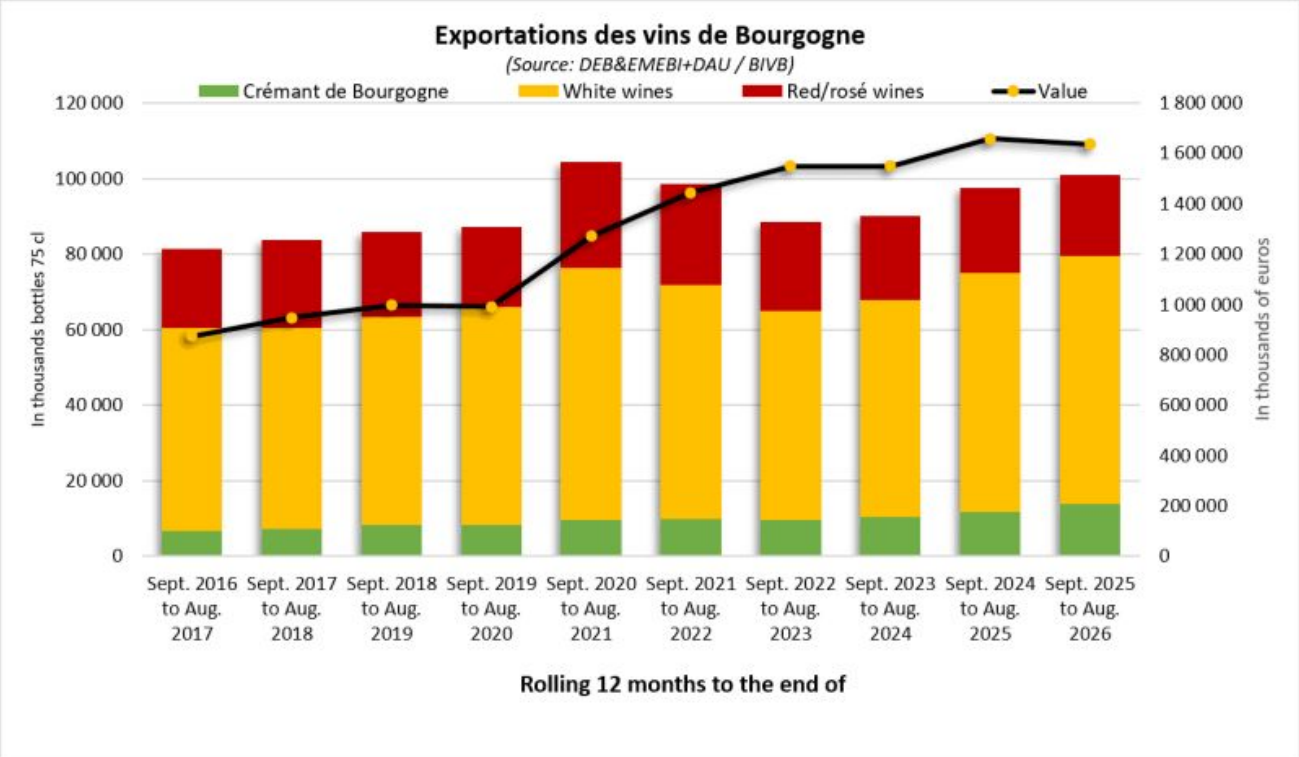
vinetur

ブルゴーニュ、輸出本数は約1億100万本に増加も輸出収入は減少

価格の見直しで白ワインとCrémantの出荷が増加した一方、ボトル当たりの平均輸出収入は約4.7%減少

2026年11月17日（火）



ブルゴーニュは2026年8月までの12カ月間に海外へのワイン出荷を増やしたものの、輸出収入は減少した。フランスの同ワイン産地では、出荷量の増加が生産者の収益回復にはまだ結びついていないことを示している。

Wine Industry Advisorが11月16日（月）、税関データに基づくブルゴーニュワイン委員会の経済動向報告を引用して伝えたところ、2026年8月までの12カ月間におけるブルゴーニュワインの輸出は約1億100万本に達した。2025年8月までの同期間と比べて3.5%増、約340万本の増加となる。一方、輸出額は1.4%減の16億5000万ユーロだった。

この数字が示すのはブルゴーニュワインの輸出であり、フランスワイン全体の輸出ではない。また、単月ではなく直近12カ月間を対象としており、報告された合計値は丸められている。これらの数値から算出すると、ボトル当たりの平均輸出収入は約4.7%減少した。ただし、この指標だけでは、

減少分のうち価格低下、商品構成、為替変動がそれぞれどの程度を占めるかは分からない。

ブルゴーニュワイン委員会は、輸出額の減少は一部市場での価格見直しを反映したものだと説明した。これは、特に価格に敏感な需要がみられるカテゴリーで、取引条件を調整して出荷量を増やしたことを示唆している。市場では、収入の回復よりも販売数量の回復が進みやすい状況がうかがえる。

ブルゴーニュは、出荷量ではフランス全体の輸出市場を上回る実績を示した。報告によると、2026年8月までの同じ12カ月間に、フランスワイン全体の輸出は数量で1.3%、金額で2.7%減少した。これに対しブルゴーニュは、販売で得られる収入が減るなかでも出荷量を伸ばした。

ブルゴーニュの輸出増を主にけん引したのはスパークリングワインと白ワインだった。Crémant de Bourgogneは年間で約210万本、白ワインは約240万本、それぞれ出荷が増加した。最も大きく伸びたのは、ブルゴーニュの地域名アペラシオン、ChablisとPetit Chablis、そしてMâconの地域名アペラシオンだった。報告は、こうした好調の一因として市場価格の低下を挙げている。

赤ワインは逆の動きを示した。期間中、ブルゴーニュ産赤ワインの輸出量は約112万本減少した。減少は、Côte de BeauneとCôte de Nuitsの村名アペラシオンで16.1%、ブルゴーニュの地域名アペラシオンで0.7%に集中した。赤ワインの低調さは、このカテゴリーの需要が全般的に鈍化していることと一致する。

輸出動向は国によっても大きく異なった。米国向けのブルゴーニュワイン輸出は、2026年8月までの12カ月間に、前年の同期間と比べて数量で6.9%、金額で17.9%減少した。報告によると、米国市場はトランプ政権が導入した関税と、措置を前に2024年と2025年に積み上がった在庫の影響を受けた。

カナダ向けの出荷も、2025年の好調を経て減速した。同期間のブルゴーニュワイン輸出は、数量で6.6%、金額で1.9%減少した。主要市場のなかで例外となったのは英国で、輸出は数量で13%、金額で3%増加した。ただし、この反発でもブルゴーニュにとって最大の輸出先2カ国での減少は補えなかったという。

輸出統計は、ブルゴーニュ全体の事業を取り巻く状況が一様ではないなかで発表された。2026年9月までの12カ月間に、同地域の瓶詰めワイン販売は0.4%増の約2億本となり、白ワインとCrémant de Bourgogneが伸びを支えた。白ワインの販売は0.8%増の1億1700万本となった一方、赤ワインは4.1%減少した。Crémant de Bourgogneは7%強の伸びを記録した。

国内市場は、一部の販売チャネルで引き続き低調だった。報告によると、2025年10月中旬から2026年10月中旬までの12カ月間に、フランスの大型量販店におけるブルゴーニュワインの販売は1.6%減少した。この落ち込みにより、ワイン消費の変化や赤ワイン需要の低迷に直面する生産者への圧力がさらに強まった。

供給面でも逼迫が進んでいる。ブルゴーニュワイン委員会によると、2026年9月末時点のスティルワイン在庫は前年同期比で3%減少した一方、Crémant de Bourgogneの在庫は5%増加した。2026年の同地域の収穫量は108万ヘクトリットルと推計され、過去5年平均の約150万ヘクトリットルを下回った。委員会は、既存在庫で当面の需要には対応できるとする一方、収量の減少は構造的な問題になっていると述べた。

在庫の動向は色やアペラシオンによって異なった。白ワインの在庫は前年同期比で3.9％減少し、Mâconの地域名アペラシオンでは17％の大幅減となった。報告は、価格調整と2年続いた小規模な収穫がその背景にあるとしている。対照的に、Chablisの在庫は2025年の収穫量が増えたことで増加した。赤ワインの在庫は1.7％減と小幅な減少にとどまった。2025年の収穫量が少なかったことを踏まえ、委員会は、これには販売の鈍化が一部影響したと説明した。

ブルゴーニュの生産者にとって、輸出データは底堅さと厳しさの両面を示している。白ワインとスパークリングワインは、特に価格競争力が高まると買い手を見つけているが、その販売戦略は収入を圧迫している。赤ワインには依然として逆風が吹き、同地域にとって重要な海外市場の一部も同時に減速している。

報告によると、ブルゴーニュは従来の輸出先にとどまらず、新たな市場にも目を向けている。開拓を進める価値のある市場として、特にインドを含む南アジアを挙げた。地域の経済団体や行政機関と連携した市場調査団が10月下旬にインドを訪問し、ブルゴーニュの企業約12社が参加した。